五つの連携で長崎のコンビニ初「導尿患者のトイレ」の設置・ピクトグラムの考案

長崎県長崎市　「みんなにやさしいトイレ会議」実行委員会

（写真1）使うひとにやさしい使い勝手の基本マニュアルを提言、長崎市内8か所のトイレ、4か所の公園のトイレに採用される。

長崎市の公衆トイレの使い勝手を「①設置する行政 ②専門家 ③使う側」三つの視点で取り組むボランティア活動組織を立ち上げて9年目、現在までに8か所の公衆トイレ、四つの公園のトイレの整備に提言をするなど「みんなにやさしい使い勝手のトイレ」に関わってきた。（写真1）

長崎大学病院とのはじまり

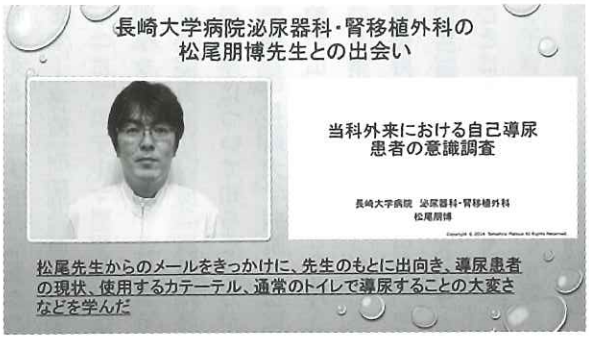
3年前、私たちトイレ会議へ協力依頼のメールが届いたことをきっかけに、長崎大学病院泌尿器・腎移植外科の松尾朋博先生のもとへ出向き、自己導尿患者の現状及び、自己導尿患者のトイレ、使用するカテーテルなどについて学ぶ。なぜ通常のトイレでは不便なのか理解はできた。しかし現実問題として、ほとんどの方が自己導尿患者の存在を知らない。そこで、まずは現状を伝えるべきだと感じ、長崎新聞に全面記事として取り上げてもらう。また、便座を実際に取り寄せる…など地道な活動から、自己導尿患者に係る取り

（写真2）新聞に取り上げてもらい、自己導尿患者の存在を知ってもらうなど、3年間の地道な活動の中で、実際に便座を東京から持ってきてもらい、体験してみる。

組みを開始した。（写真2）

長崎大学病院泌尿器科・腎移植外科松尾朋博先生とのつながり

「自己導尿が必要な患者の方は、排せつの際に特殊な機器や消毒が必要で、通常のトイレでは不便であることから、生活の場、活動の場が限られているという実情を発信する場がなかった。「みんなにやさしいトイレ会議」実行委員会の活動に感銘を受け、長崎大学として何か支援できないか考えていた」という長崎大学泌尿器科松尾先生の想いが、私たちの新しい取り組みの後押しとなった。（写真3）



（写真3）長崎大学泌尿器科松尾先生のメールから、私たちトイレ会議の自己導尿患者のトイレへの取り組みが始まった。患者の意識調査の内容の中で、お出かけ先の普通のトイレでは不都合が多く、尿を我慢してすることで尿漏れになって困る方もいる。

五つの組織の連携で平成30年8月30日　長崎のコンビニ初！自己導尿患者のトイレ設置

私たちトイレ会議が、トイレへの取り組みを共に進めている「長崎市まちなか事業推進室※」と一緒に、特殊な便座を採用してくれる公衆トイレ、一般のトイレを探して1年、また1年が過ぎる…なかなか自己導尿患者への理解が得られない日々だった。

（写真4）コンビニのトイレを使う人のマナーが悪いということで、貸したくないといわれることもある。それは、観光地長崎でも同じ。しかし、改修にあたり、あえて大きなトイレのサインを掲示。長崎のコンビニ初の自己導尿患者のトイレは、2階のイートインコーナーに設置された。

昨年、たまたま店舗改修を予定されていた企業（ファミリーマート）の「何か地域貢献に繋がる取り組みができないか…」の想い。それは、店舗のトイレを民間開放のトイレとして協力する→しかも自己導尿患者の便座採用→まさに地域貢献！ついに長崎のコンビニ初の「自己導尿患者のトイレ」までたどりついた。

3年がかりの夢が、①トイレ会議 ②行政 ③企業（ファミリーマート）④大学病院 ⑤専門家（片倉工業）の五つの組織が連携してこそ実現した。（写真4）

※長崎市では、市内中心部（まちなか）の賑わいを高めることを目的として市民や市民団体、企業、大学など様々な組織と連携を図りながら、地域力によるまちづくりを推進する「まちぶらプロジェクト」に取り組んでいる。「みんなにやさしいトイレ会議」実行委員会は、「まちぶらプロジェクト」第2号に認定されている。

日本トイレ協会　第34回トイレシンポジウムでプレゼンとして発表

2018年11月19日　第34回全国トイレシンポジウム「公共トイレが直面する問題

を考える」に参加、”五つの視点が入ってます！ 長崎初「導尿患者のトイレ」をコンビニに“のテーマでプレゼン。全国から専門家などが集まる、このような協会の中でも、「自己導尿患者」の存在、自己導尿患者の便座について知らない方が多かったことに驚く。長崎大学病院の松尾先生の「この輪が広がっていくことを強く望んでいます」の言葉を改めて実感。広く多くの方から理解を得るために、私たちのもうひとつの夢、「自己導尿患者のピクトグラム」を考案することになった。（写真5）

（写真5）日本トイレ協会のトイレシンポジウムで、自己導尿患者のトイレについてプレゼン。高い評価を頂きました。

自己導尿患者のピクトグラムの提案&市長報告

ピクトグラムは、誰が見てもひとめでわかるようにシンプルなデザインを提案。視覚障害者の方のためにもモノクロで提案。

また、考案するにあたり、自己導尿患者の方は、導尿患者という名称を気にされるという松尾先生のアドバイスによりピクトグラムのサインは「CIC」clean intermittent catheterization からの頭文字を採用しました。（写真6）

（写真6）2018年12月25日、クリスマスの日に市長報告。私たちが考案した自己導尿患者のためのピクトグラムを報告。また長崎新聞にも掲載された。このピクトグラムを全国の多目的トイレに貼ってもらい、広く伝えていきたい。

今後の取り組み

全国に向けてCIC患者のマークを発信したいと思います。やはり存在自体が知られていないという大きな課題があります。オストメイト患者がようやく知られてきたように、長崎大学病院の松尾先生とともに、広く全国に伝えていかなければいけない。また多目的トイレにマークを貼るためのシールの作成のための資金も課題のひとつではある。

（「みんなにやさしいトイレ会議」実行委員会　実行委員長　竹中晴美）